

わくわくがっこうマップをつくろう

生活 第1学年

七尾市立田鶴浜小学校・教諭

1 事例の概要

前任校の能登島小学校は島の中にある唯一の小学校であり、児童は大型バスで登校してきている。海や山の素晴らしい自然に囲まれて暮らしているが、子どもたちの生活の中では、移り変わる自然の様子を登下校の車窓から見るが多い。そのため、自然を肌で感じる機会があまりない。

どのような学習・生活環境の中においても、子どもたちが様々な体験や具体的な活動を通して学んでいくことが生活科の基本である。そこで、評価と指導を有効に機能させて、子どもたちに「確かな学力」を育み【生きる力】を育成する授業の工夫改善が課題であると考えた。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

学校やその周りの自然・人々・施設等に関心を持ち、関わりながら、楽しく学校生活を送ったり、お気に入りの場所を見つけたりすることができる。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 指導法の工夫

生活科の目標、内容について理解を深め、児童理解・地域環境も考慮した視点で指導計画を見直し、直接関わる活動や体験を重視した年間学習指導計画を作成し、それに基づいて活動を展開した。

また、年間学習指導計画の評価規準を設定し、評価規準を取り入れた単元指導計画を作成し、指導を行い、指導と評価の一体化を図っていった。

また、一人一人の児童の思いや願いなどを的確にとらえるための支援のあり方、学習形態の工夫や家庭や地域の人々の協力など、単元の内容に沿って適切に取り入れていった。

② 評価の工夫

児童のよさや可能性を積極的に見出し、伸ばし、学習意欲を喚起する評価について、実現状況を適切に把握する方法（児童の自己評価・指導者の評価等）を工夫・改善し、児童の学習状況をつかむ。

ア 能動的評価を積極的に取り入れる。

教師が、求めたい答えが返ってくるように、意図的に質問をし児童の答えを引き出す方法であるが、言いたいことをうまくまとめることができないこの時期には大変効果的である。

イ 全員ではなく、数人ずつでも毎時間後メモをとり評価し、分析をする。

全員を評価することはできないが、評価する児童を決めておき授業に臨む。また実現状況は分析し、指導に生かしていく。

ウ 評価の視点を明確にする。

評価規準を満足する姿を具体的に評価を行った。

B-1 単元計画

B-2 指導と評価の計画

3 指導の実際

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	支援☆・評価◆（方法）
<p>3 発表する</p>	<p>○ 今日のやったねを発表しよう</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>楽しく遊んだ砂場を書いたよ。ミミズがもによもによ出てきたよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>キラキラハウスのにわとりの赤ちゃんがえさを食べていた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>いつも見ている桜の木だよ。カブト虫みたい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>アスレチックでむかでと出会ったよ。食べられそうだったよ。</p> </div>	<p>☆マップをよくするために、吹き出しを書いたり、説明を書き込んだりするためのカードを準備する</p> <p>◆楽しく遊んだことや発見したことをカードに書き、友だちに伝えようとする （絵カード・発表）</p>

C-1 指導案

C-2 学習の様子

C-3 児童の絵カードと評価

4 成果と課題

(1) 指導方法の工夫

1年生・2年生の2年間の学習の流れがわかり、内容のバランスなども考慮できる学習計画になるように、年間計画の見直しを行った。特に1・2年の交流の場を明記したことにより、生活科の単元の関わりが明らかになり、見通しを持った学習ができるようになった。

また、チーム・ティーチングを行ったことで、個に応じた適切な支援をすることができ、一人一人の思いを大切に活動が展開できた。

年間指導計画に関しては、作成したことで安心せず、授業実践しながら工夫・改善を加えていかなければならないと考える。

(2) 評価の工夫

チーム・ティーチングで活動を行ったことで、多くの児童を深く見取ることができた。

また、評価の視点をできるだけ具体的なものにしたことで、児童の姿がよく見え、評価がしやすくなった。

いつでも使うことができる補助簿を使うことで、授業後に簡単にメモをとるなど評価のまとめがしやすくなった。

課題としては、授業中はB規準を念頭において評価をするが、Aに関しては具体的な判断基準が曖昧である。Aに関しても具体的な子どもの姿を思い描けなくてはならないと考える。

入学したばかりの児童は、言葉による表現も絵による表現も十分ではない。そのため、一人一人の内面の意欲や気付きについてとらえにくいことが多い。様々な場面で意識して児童を見ていたが、なかなか適切な評価に至らず、一層の工夫が必要であると考えている。

D-1 16年度生活科年間指導計画一覧表

D-2 評価の補助簿

D-3 その他資料